

マルケス ペドロ先生 西武学園文理中学・高等学校 校長に着任

令和5年度 西武学園文理中学・高等学校の校長にマルケス ペドロ先生が着任し、入学式に校長として最初のスピーチを新入生に行いました。

以下に、校長式辞（一部抜粋）を掲載いたします。



新入生の皆さん

新校長のマルケス・ペドロです。

この度は、西武学園文理中学・高等学校にご入学いただき、誠にありがとうございます。

西武文理は、今、社会の中に起きている大きな変化に対応できるように、少しずつ変わろうとしています。私が校長に就任したことが、その証だと言えるでしょう。埼玉県において外国人が校長を務める学校を、私は知りません。次世代の日本人の教育に携わることができるという立場に立ち、私は重大な責任を感じています。入学して下さった皆さんの成長を校長室から見守るのではなく、日々の教育に関わりながら、近くから全力でサポートする校長先生として、皆さんのために、そして日本のために、全力を尽くしていきたいと思えます。

さて、先ほど「社会の中に起きている大きな変化」と言いましたが、それを私は、テクノロジーの進化による生成型 AI の誕生や SNS の活性化などから見られる「バーチャル世界の正当化」だと考えています。今後もさらに、AI は進化し、情報のスピードも速くなるに違いありません。つまり、皆さんは、私たち大人が生きてきた世界とは違う世界で生き、私たち大人とは違う生活を送り、違う仕事をすることです。

そして、新しい世界を創造する人、AI をうまく扱って新しい商品やサービスを開発するアントレプレナーマインドを持つ人、人間にしか持てない社会的スキルに溢れる未来のリーダー、私たち大人には導き出せない答えを創ることのできる人の育成を、本校の目標とします。

西武文理を今よりもさらに良い学校にし、多くの卒業生に社会で輝くリーダーになってもらえるように、私は「知識伝達型教育」から「生徒中心型教育」へと、無理のない程度に、ゆっくりと、しかし確実に教育モデルを変えていきたいと思えます。

それは勉強を捨てるという意味ではありません。むしろ逆です。勉強に向かうモチベーションが沸いてくるように、生徒が論理的にも実践的にも自発的に参加したいと思える現代的な教育モデルを実践することです。高速で流通する情報に慣れている皆さんにとって、50分間も大人の話聞くのは、時間の無駄だと思います。受け身になることなく、生徒自身がアクティブに自分の学びを探究する、自分の未来を描いていく、それに向けて、十分なスキルを先生のもとでいろいろと実際にやってみながら、成長していくというイメージです。

失敗しないための教育は時代遅れとなりました。たくさん失敗することで、その過程を通して「学び」が起きます。心配しないで下さい。あなたは一人ではありません。あなたが自分の描いている世界を現実化できるように、常に私たち最先端のスタッフが付いています。転んだときは、立ち上がれるようにサポートします。そうしていく中で、自分も、学校も、日本も、そしていずれは世界も変わっていきます。

今後はさまざまな実践プロジェクトや探究学習、IT 研修を行います。また、生徒自身に「学校を考え直す」機会を与えます。あなた自身が改善に向けてアクションを起こし、その過程で学びを体感する実践的教育モデルを取り入れていきます。今から実際の社会にアクティブに参加してもらいます。なぜなら、今存在する世界にフィットする人間ではなく、今よりも良い世界を考え出す人間を育てることが私たちの目標だからです。

最後に、私から入学生の皆さんにお願いが一つ、アドバイスが一つ、そして命令が一つあります。

まず、お願いします。何でも相談にきてください。勉強の話でも、進路の話でも、それ以外の悩みでも、何でも歓迎です。私は、いわば皆さんの師匠に当たります。日本人の妻と子供が二人いますが、文理に入学して下さった皆さんも、自分の子供と同じように暖かい視線で見守りたいと思っています。子供のために何でもやる親と同じように、皆さんのために自分の身を捧げます。恐れることはありません。私が皆さんの盾になります。大人がすべての答えを持っていると信じながら育った私は、確信を持って皆さんに言います。全ての答えを持っている人はいません。失敗を恐れずに、一緒に皆さんの成長と成功へと歩んでいきましょう。西武文理で、自分の世界を築いて下さい。私はそれが叶うまで諦めません。

次に、アドバイスです。誰かに「あなたは〇〇が足りない」と言われてもその意味を正しく理解しておくといよいでしょう。それは「あなたは、私の価値観から見て〇〇が足りない」と言っているにすぎません。そういう意味では、自己中心的で、視野が狭い人の発言とも言えます。もしそのような場面に出くわしたら、その人が視野を広げるための手助けをしてあげて下さい。つまり、視野の広い人間には、視野の狭い人間を指導する義務があります。

本学園は「ホスピタリティ精神」を育むことに焦点を当てています。これは、外国人である私から見ると、日本文化の強みだと思っています。日本文化の「丁寧で、心配りに満ちた行動パターン」と「人間関係の繊細さに気をつける」という部分は世界的にも評価されています。ホスピタリティ精神を磨き、学問を修め、テクノロジーの実践的な知識を手に入れ、そして想像力と探究力を身につけた自分を思い浮かべてみて下さい。私から見れば、そんなあなたは無敵です。

最後になりますが、校長命令です。

HAVE FUN!

学校生活を十分に楽しんで下さい。本日以降、楽しむことに関して後悔を感じるのを、禁止します。

本日より、皆さんの校長先生でいられることを心から光栄に思います。

「変化をもたらす者」として期待されていますが、その変化の主人公は私ではありません。主人公は皆さんです。それを叶えるのが、私のプロとしての任務、人間としての宿命、個人として幸せです。どうぞよろしくお願いたします。

令和5年4月8日
西武学園文理中学・高等学校長
マルケス・ペドロ